

あいさつ

さいたま市教育委員会 教育長 稲葉 康久

さいたま市立大宮東中学校が、平成27・28年度の2年間にわたり、さいたま市教育委員会委嘱による「教育の情報化」の研究指定校として、全校をあげて研究に取り組み、ここにその成果を発表されますことに敬意を表するとともに、お喜びを申し上げます。大宮東中学校では「確かな学力を身につけさせるための授業改善の研究」を研究主題とし、ICTを生かした授業改善を全教科において取り組んでこられました。特色ある取組としては、複数のスクリーンや教科専用のコンピュータを配置した特別教室を有効活用し、視覚や聴覚に働き掛けながら、基礎学力の定着や生徒が主体的に学び授業を実践されたことがあげられます。これらICTを効果的に活用した授業の研究は、さいたま市教育委員会が推進する「よい授業」を具現化する、大変有意義な研究であります。

結びに、本研究に積極的に取り組んでこられました上亟啓介校長先生をはじめとする教職員の皆様、本研究を御支援くださいました保護者・地域の皆様に心より感謝申し上げます、あいさつといたします。

学校長 上亟 啓介

本校では、平成27・28年度の2年間にわたり、さいたま市教育委員会より「教育の情報化」の研究指定校として委嘱を受け、「確かな学力を身につけさせるための授業改善の研究～五感に訴えるICTの効果的な活用～」を研究主題とし、全校をあげて研究に取り組んでまいりました。

今年度の全国学力・学習状況調査によると、本校の生徒は、学力については全ての調査で市・県・全国の平均を上回る成績を残しています。しかし、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問で、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の数は、県・全国の数値を下回っており、自分のことを肯定的にとらえ、主体的に将来の進むべき道について考えようとする姿勢に課題が見られます。

そこで、ICTを活用した授業改善を全教科で図り、生徒が積極的に疑問や気付いたことを発表できる環境を整備し、「学びたい」という意欲を喚起することで、こうした課題の克服を図ってまいりました。

本日は、2年間のまとめとしての発表ではありますが、研究を深めるべき課題はまだ多数残されております。皆様から頂いた意見を真摯に受け止め、生徒がより笑顔で生活できるよう全教職員一丸となって取り組んでいく所存です。

結びに、本研究推進にあたり御指導いただいたさいたま市教育委員会の皆様、御支援いただきました先生をはじめとする教職員の皆様、本研究を御支援くださいました保護者・地域の皆様に篤く感謝申し上げます、あいさつといたします。

【指導者】

(平成28年度)

- さいたま市教育委員会 教育研究所 細井 博幸 主任指導主事 ICT教育推進係
- さいたま市教育委員会 教育研究所 田山 豊 主任指導主事
- さいたま市教育委員会 教育研究所 平山 昂 指導主事
- さいたま市教育委員会 教育研究所 山口 泰由 指導主事
- さいたま市教育委員会 教育研究所 木村 貴哉 指導主事
- さいたま市教育委員会 教育研究所 藤田 雅彦 主任指導主事
- さいたま市教育委員会 教育研究所 望月 文恵 指導主事
- さいたま市教育委員会 教育研究所 後藤 正憲 指導主事
- さいたま市教育委員会 教育研究所 難波 孝史 指導主事
- さいたま市教育委員会 教育研究所 高久 正行 主任指導主事

(平成27年度)

- さいたま市教育委員会 教育研究所 清水 英生 指導主事
- さいたま市教育委員会 教育研究所 瀧山 聡美 指導主事
- さいたま市教育委員会 教育研究所 中込 光統 主任指導主事
- さいたま市教育委員会 教育研究所 山下 保夫 主任指導主事

【研究に携わった職員】

(平成28年度)

- 学校長 上亟 啓介 教頭 大木 克己
- <国語科> 越智 宏明 坂西 典子 山本 直美
- <社会科> 水田 侑希 山下 浩司 西本 貴哉
- <数学科> 宮崎 祐介 大塚 駿一 原田 学
- <理科> 内田 浩也 阿部 一彦 萩元 友樹
- <G・S> 名渡山 睦 野川ひとみ 大野 里佳
- <音楽科> 早坂 幸恵
- <美術科> 丸山 真吾
- <保健体育科> 齋藤 速 金子 幸江
- <技術・家庭科> 齋藤 喜之(技術) 黒田 鈴(家庭)
- <通級指導> 峯坂 昌子
- <養護教諭> 田口 祐子
- <S A> 羽島美智子 村松由佳子 池田 明恵
- <ALT> ポール・マクラン
- <学校図書館司書> 桐木平 浩美
- <さわやか相談員> 森田 栄魅 <SC> 天地 朋子
- <初任者指導> 石阪 孝司 根岸 洋子
- <日本語指導員> 詹 碧文
- <栄養主査> 野澤 清乃 <事務主査> 分須 正明
- <業務主査> 大槻 幹枝 金子 満
- <学校地域連携コーディネーター> 山口 剛
- <埼玉県連合教育幹事> 渡辺 俊行
- (平成27年度)
- 教頭 富田 敦
- <社会科> 奥山 卓郎 <数学科> 小泉 裕
- <技術・家庭科> 滝口 美樹(家庭) <SA> 鯨井 和子
- <初任者指導> 小島佐知子 篠澤 章夫
- <さわやか相談員> 内藤 さゆり <SC> 中村 曜子
- ※SA: スクールアシスタント SC: スクールカウンセラー

さいたま市教育委員会研究指定 (委嘱期間:平成27・28年度)

領域:「教育の情報化」

【研究主題】

確かな学力をつけさせるための
授業改善の研究

～五感に訴える

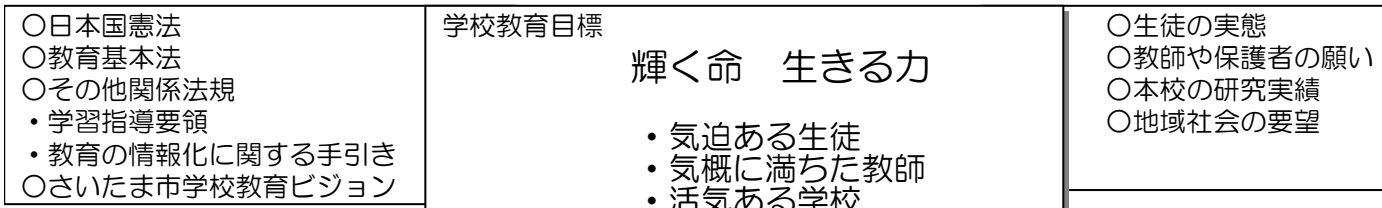
ICTの効果的な活用～



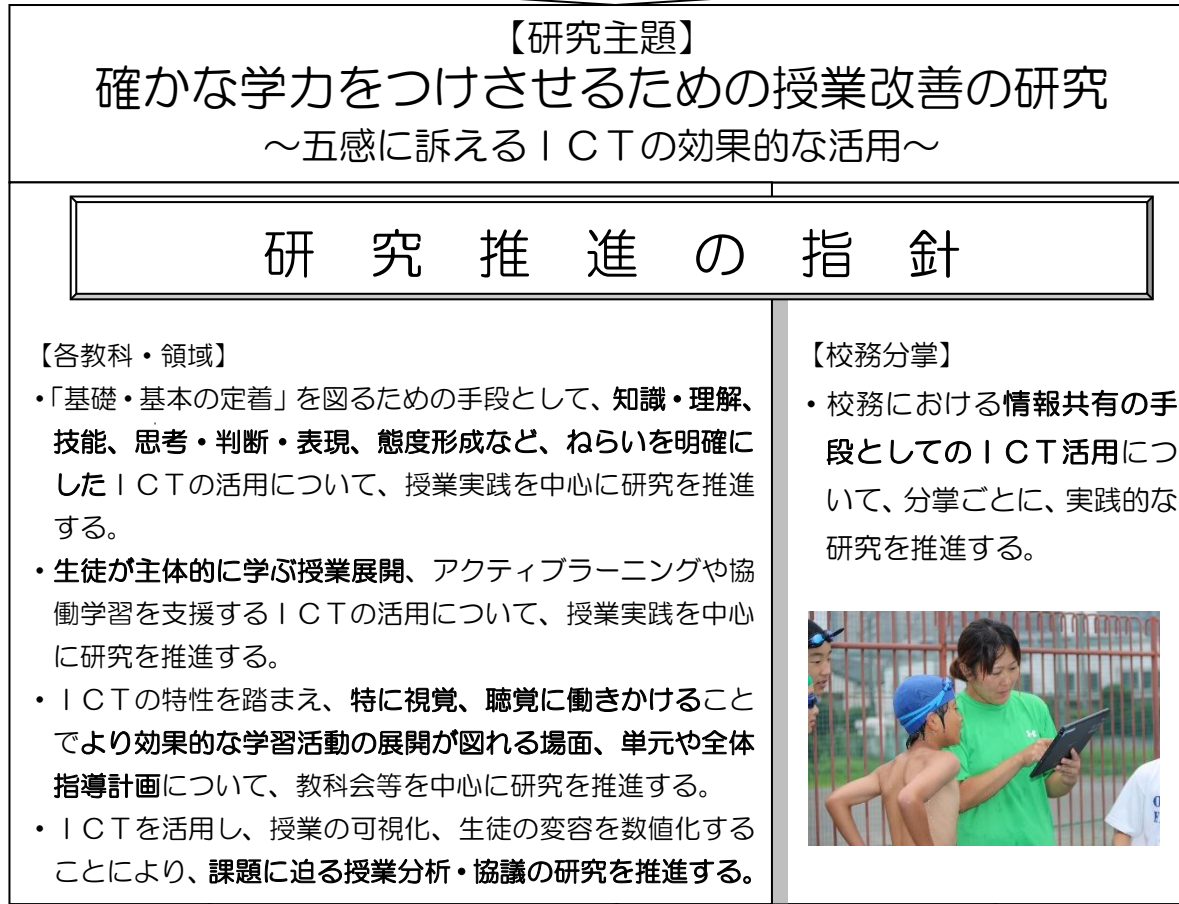
学校教育目標
輝く命 生きる力
<目指す生徒像> 気迫ある生徒
<目指す教師像> 気概に満ちた教師
<目指す学校像> 活気ある学校



さいたま市立大宮東中学校



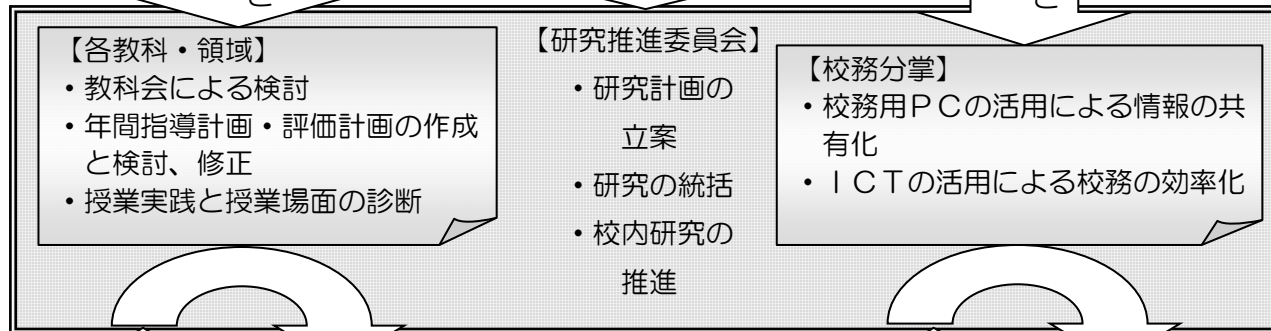
具現化する手立て



検証
実践と

検証
実践と

検証
実践と



各教科・領域の授業実践

各校務の運営

本校の研究

【研究の概要】



本校では、平成27・28年度の2年間、さいたま市教育委員会より研究委嘱を受け、「確かな学力をつけさせるための授業改善の研究 ～五感に訴えるICTの効果的な活用～」を研究主題とし、授業実践を中心に研究を進めてきた。

本研究では、各教科における基礎的・基本的な知識の理解や技能の習得、思考力・判断力・表現力や態度形成等のねらいを、より明確に達成するための手立てとしてICTを活用し、五感、特に視覚と聴覚に対し効果的にはたらきかけ、到達すべき目標に迫る授業について、具体的な展開を通して研究することを目的としている。

また、本校では、学習目標への到達をより円滑に推進する授業実践の手段として、ICTを活用することで、学習目標への到達、及び目指す生徒像の具現化を図る手立てとして、「確かな学力をつけさせるための授業改善の研究～五感に訴えるICTの効果的な活用～」を主題として、授業実践を中心とした研究を進めてきた。

【研究の基本指針】

- (1) 各教科、領域
- ・「基礎・基本の定着」を図るための手段として、知識・理解、技能、思考・判断・表現、態度形成など、ねらいを明確にしたICTの活用について、授業実践を中心に研究を推進する。
 - ・生徒が主体的に学ぶ授業展開、アクティブラーニングや協働学習を支援するICTの活用について、授業実践を中心に研究を推進する。
 - ・ICTの特性を踏まえ、特に視覚、聴覚に働きかけることでより効果的な学習活動の展開が図れる場面、単元や全体指導計画について、教科会等を中心に研究を推進する。
 - ・ICTを活用し、授業の可視化、生徒の変容を数値化することにより、具体的な課題に迫る授業分析・協議の研究を推進する。
- (2) 校務分掌
- ・校務における情報共有の手段としてのICT活用について、分掌ごとに、実践的な研究を推進する。

研究の成果と課題

【成果】



- ・教師による説明時間の短縮、より分かりやすい師範ができ、生徒の活動時間の担保や内容の充実につなげることができた。
- ・ICTの活用による効果を十分に活用し、学習目標により迫る授業展開を図ることができた。

【課題】

- ・まだ活用していないICT機器の機能等を用いることで、研究のねらいや授業の学習目標にさらに迫る展開が考えられる。
- ・ICTの効果を十分に発揮できる学習場面について、更に探求を進める。

